

「学生による授業評価」のまとめ 2014 年度秋学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会
委員長 中村 和彦

2014 年度秋学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2014 年 12 月 12 日～2015 年 1 月 21 日に実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに心より感謝申し上げます。

今回も、これまでと同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず、原則として、1 教員 1 科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することを基本にしつつ、学生および教員に過大な負担がかからないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けの FD 関係 Web ページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価結果の概要につきましても同 Web ページで開示しています。

1 授業評価の実施方法

① **対象科目** 各教員につき、それぞれの担当科目のうちの 1 科目が選択され、名古屋・瀬戸キャンパス合計で 561 科目が授業評価の対象となりました。

② **設問項目** 設問は 20 個あります。設問 1 から 3 までは、学生の授業参加(出席、予習復習など)を問う項目です。設問 4 から 18 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う項目になっています。設問 19 と 20 は、到達目標に関して問う項目です。また、裏面は自由記述欄になっています。

③ **実施・回収手順** 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

④ **作業手順** 授業評価の実施(2014 年 12 月 12 日～2015 年 1 月 21 日) → 集計作業 → 教員への集計結果の通知(2015 年 2 月 5 日) → FD 委員会による自由記述の閲覧(2015 年 2 月) → 教員からの報告書提出(2015 年 2 月) → FD 委員会での結果の分析・検討(2015 年 2 月) → 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2014 年度秋学期」の発行(2015 年 6 月)

2 集計結果の概要

結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

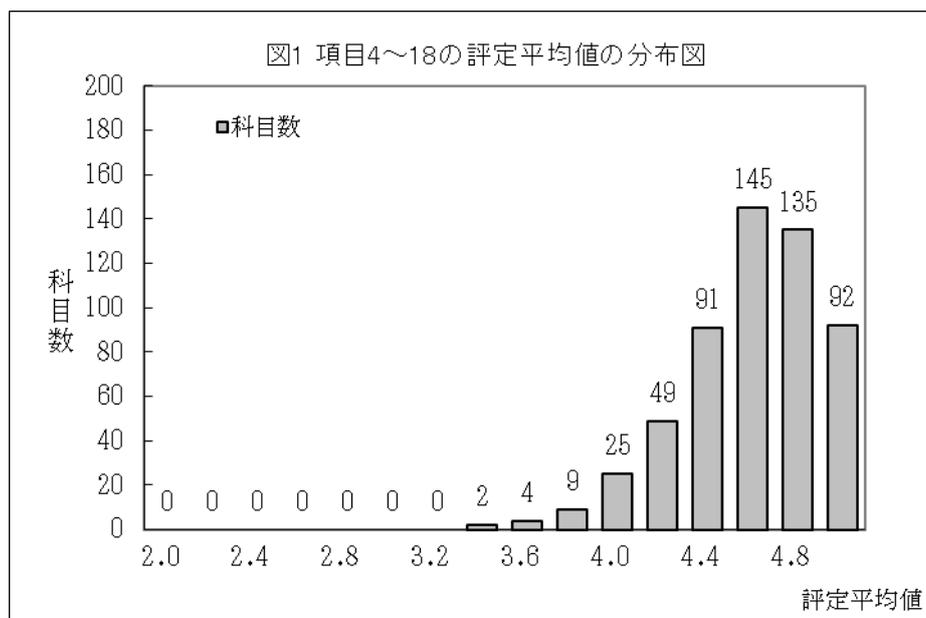
① **実施率** 大学全体では、授業評価の実施率は 99.11% (556/561 科目) でした。キャンパス別にみると、名古屋 99.12% (449/453 科目)、瀬戸 99.07% (107/108 科目) でした。

② **報告書提出率** 大学全体では、報告書の提出率は 98.80% (575/582 科目) でした。名古屋 98.93% (463/468 科目)、瀬戸 98.25% (112/114 科目) でした(評価対象科目

が、演習科目のうちいわゆるゼミ、あるいは受講者数が4名以下の科目は、学生による授業評価を実施せず、報告書の提出のみをお願いしています。この分の科目数21が、①で示した科目数にプラスされています)。

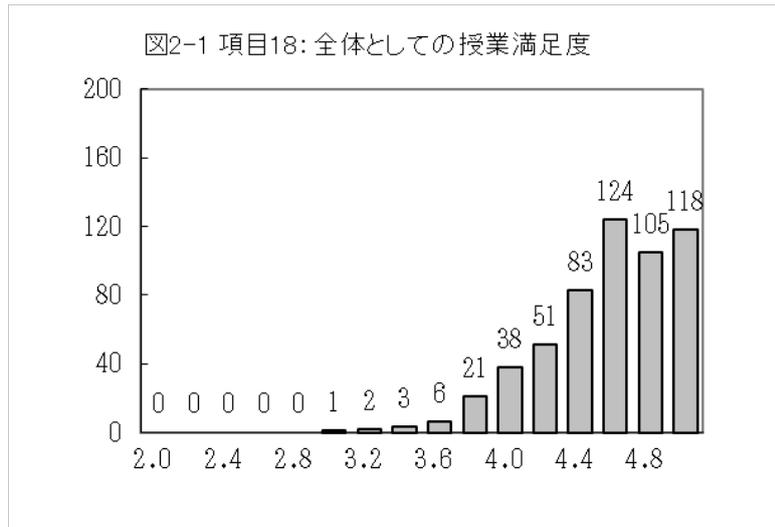
③ **評定平均値** 設問1から3までの学生の授業参加を問う項目と、設問4以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、設問4から設問18について平均値を算出しています。なお、過去の平均値との比較を行うために、2014年度から新たに追加された設問19と設問20は平均値を算出する際を含めていません。電算処理が行われた552科目(回答数が4名以下の4科目は、電算処理を行っていません)の設問4から設問18の評定平均値の大学全体での平均は4.41でした。この平均値についての科目数と累積の分布を図1に示しました。

電算処理実施科目のうち約90%の科目が、設問4から設問18の評定平均値が4.0を超えており(4.0以下が7.2%)、さらに約80%の科目が4.2を超えています(4.2以下が16.1%)。また今回、設問4から設問18の評定平均値が3.0未満であった科目はありませんでした。



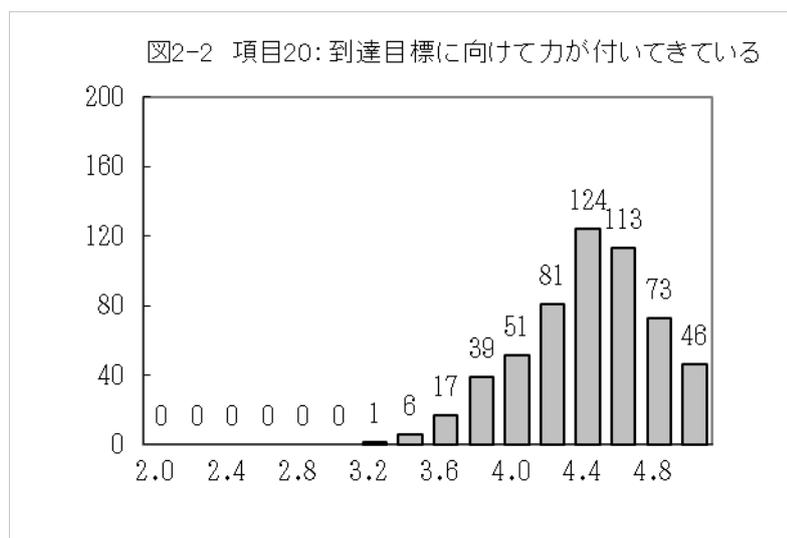
項目4～17の各項目の平均値とヒストグラムは、これまでの傾向とほぼ同様なので、ここでは記述を省きます。

設問18(全体として、あなたはこの授業に満足しましたか)は、われわれが最も重視する項目です(図2-1参照)。今回、この項目の評定平均値は4.38でした。約85%以上の科目が4.0を超えています(4.0以下が12.9%)。他方で3.0未満の評価を受けている科目が1科目ありましたが、全体として、学生の満足度を十分満たしていると思われます。



2014年春学期から追加された2つの項目の評定平均値は、設問19（教員は到達目標の達成に向けて、授業を進めていましたか）が4.48、設問20（あなたは到達目標に向けて、着実に力が付いてきていると思いますか）が4.20でした。設問20は、授業の到達目標を達成できているかどうかについて学生が自己評価をしている項目です。すべての授業や学期末の試験（レポート）が終わっていない段階での自己評価ですので、試験が終わった後にはこの評定値がさらに上がる可能性はあります。そのため、間接的な指標ですが、一方で、授業を通して学生が力を着けたかどうかを知ることができる項目でもあり、先生方が自己点検・評価報告書を作成する際には是非とも参考にしていただきたいデータです。

項目20の評定平均値にバラツキがある点に注目してみると、4.6以上の科目は約21%（4.8以上となった科目は約8%、計46科目ありました）、4.0未満の科目は約20%という結果でした（図2-2参照）。この項目の評定平均値が高く、学生が「到達目標に向けて着実に力が付いてきている」と自己評価していることは、「いい授業」の一つの側面だと考えられます。



3 評定値の推移について

授業評価対象科目の選出方法が現行の方式となり、かつ、18 の設問で評価を求めるようになったのが 2006 年度春学期からです。以下に紙幅の都合上、最近 9 期分の評定値を表に示します。

表1 項目 4 から 18 の評定平均値(2010 秋～2014 秋)

年度・学期	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋	2014 春	2014 秋
全 体	4.36	4.31	4.39	4.35	4.41	4.38	4.40	4.36	4.41
名古屋	4.39	4.35	4.43	4.37	4.42	4.41	4.42	4.37	4.44
瀬 戸	4.24	4.18	4.30	4.29	4.35	4.29	4.34	4.33	4.33

表2 18 項目ごとの評定平均値(2010 秋～2014 秋)

設問項目	2010	2011	2011	2012	2012	2013	2013	2014	2014
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
1 授業への出席	4.19	4.3	4.17	4.29	4.21	4.26	4.20	4.37	4.24
2 授業への取り組み	4.14	4.17	4.2	4.21	4.15	4.21	4.16	4.24	4.23
3 自主的な学習の実行	3.02	3.1	3.17	3.19	3.25	3.26	3.27	3.29	3.37
4 授業時間の厳守	4.6	4.61	4.6	4.62	4.61	4.63	4.59	4.64	4.62
5 構成や速度が適切	4.47	4.45	4.48	4.46	4.5	4.5	4.50	4.48	4.50
6 学習目標の明示(※)	4.41	4.37	4.45	4.4	4.46	4.44	4.45	4.37	4.43
7 シラバスの有用性	4.3	4.27	4.37	4.31	4.36	4.34	4.36	4.30	4.37
8 教員の声	4.6	4.55	4.6	4.57	4.6	4.59	4.61	4.59	4.61
9 理解度への配慮	4.33	4.26	4.35	4.3	4.38	4.33	4.38	4.32	4.38
10 妨げ行為への対処	4.26	4.23	4.29	4.24	4.29	4.28	4.28	4.26	4.29
11 板書、配布資料	4.33	4.29	4.36	4.33	4.37	4.34	4.38	4.34	4.39
12 意欲を引き出す工夫	4.13	4.07	4.19	4.13	4.22	4.17	4.21	4.16	4.24
13 自主的学習の指導	4.17	4.1	4.23	4.18	4.26	4.22	4.26	4.20	4.29
14 質問や相談の機会	4.29	4.25	4.34	4.3	4.36	4.3	4.33	4.30	4.36
15 教員の姿勢	4.58	4.55	4.61	4.57	4.6	4.58	4.60	4.58	4.60
16 内容へのさらなる興味	4.19	4.13	4.25	4.19	4.27	4.22	4.26	4.20	4.28
17 知識・理解の深まり	4.37	4.33	4.42	4.37	4.42	4.39	4.42	4.37	4.42
18 全体としての満足度	4.32	4.26	4.37	4.32	4.39	4.35	4.38	4.31	4.38

※2014 年度より学習目標→到達目標

表 1 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問 4 から 18 の平均値を学期ごとに示したものです。大学全体の評定平均値は、既述のように 4.41 (2014 年度春学期は 4.36) と

なりました。これまで、春学期よりも秋学期の方が評定平均値が高いというパターンを繰り返してきましたが、今回も同様の結果になりました。また、秋学期の評定平均値は年々上昇して過去最高の数値を更新してきましたが、2013年度秋学期（評定平均値 4.40）に初めて前年度を下回りました。2014年度秋学期は 0.01 ポイントとかわらうじて上回りました。瀬戸キャンパスの評定平均値が、2012年度秋学期 4.35、2013年度秋学期 4.34、2014年度秋学期 4.33 と、徐々にですが下がっているという結果が大変気になります。

表 2 は、9 期分の 18 設問ごとの評定平均値を示したものです。

設問 1、設問 2、設問 3、設問 4、設問 12、設問 13、設問 14 でした。これらの項目のうち、設問 2（授業への取り組み）、設問 3（自主的学習の実行）、設問 12（意欲を引き出す工夫）、設問 13（自主的学習の指導）は 9 期の中で最高点となりました。2014年度秋学期は、学生の皆さんがまじめに授業に取り組んでいたことや、先生方が自主的学習を促進させる工夫をしていたことの表れかもしれません。また、設問 12、設問 13、設問 16 は、評定平均値がなかなか高まらない、南山大学の課題となっていた設問なので、これらの設問の評定平均値が高まっていくのは喜ばしいことです。今後も、多人数講義を含めて、学生の意欲を引き出す工夫や自主的学習の指導がされていく授業運営に取り組んでいきましょう。

2013年度秋学期の評定平均値よりも低くなったのは設問 6（到達目標の明示）のみでした。この設問は 2013年度春学期から 2014年度春学期にかけても低くなりました。この傾向は、これまでの「学修目標」という言葉から「到達目標」という言葉に変わったこと、そして、授業評価を実施する際に、設問 19 や設問 20 を答えやすくするために、授業の到達目標を再度明示するようになったことによる影響だと思われます。

私は、2013年度秋学期と 2014年度春学期の「学生による授業評価」まとめの冊子の巻頭言で、設問 4 から 18 の評定平均値の上昇が止まったことについて、「今後は踊り場（停滞期）に入る可能性があり、授業をさらによくして評定平均値が上昇するには、これまで以上の授業改善への努力が必要になると考えられる」と記しました。今回は昨年度に比べて「微増」であり、踊り場（停滞期）が続く可能性もあります。

南山大学全体として、学生による授業評価の評定平均値を上げていくためには、①設問 12、13、16 などの学生の意欲が高まり、自主的な学びを促す工夫、②多人数授業の評定平均値の全体的な向上、がポイントになります。到達目標で設定した力が身に付く授業の実施を目指して、さらなる工夫をしながら授業改善に取り組んでいきましょう。また、授業改善を推進するための各単位（学部、学科、共通科目の委員会等）での FD 活動をさらに推進させていく必要があります。

4 回答率について

「南山大学『学生による授業評価』のまとめ」評価報告書において、これまで何度も指摘されていた問題が、大教室での授業で回答率が低い科目が多いことでした。今回を含む過去 9 期の大学全体の回答率、および、授業規模で 4 つに分類したカテゴリーごとの回答率の推移を算出しました（表 3 参照）。

授業の受講者数が多いカテゴリーほど、回答率が低くなっています。また、春学期に比べ、秋学期に回答率が低くなっています。秋学期のみの年次比較を規模別で見ると、241名以上の科目は最近の3年間はほぼ横ばい、61名～120名の科目は若干ですが回答率が上がりつつあります。

回答率は出席率と関連しますが、一方で、出席数よりも回答数の方が少なく、「学生による授業評価」を実施する時にアンケートに協力せずに帰ってしまう学生も多い、との声が先生方から届いています。先生方は特に多人数授業での学生の出席率を高める取り組みを、学生の皆さんは「学生による授業評価」アンケートへの協力を是非ともお願いします。

表3 回答率(2010年度秋学期～2014年度秋学期)

	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春	2013 秋	2014 春	2014 秋
全体	55.60%	64.20%	54.80%	64.80%	59.90%	65.90%	60.60%	67.01%	60.77%
30名以下	83.40%	89.20%	82.70%	87.80%	86.90%	88.40%	84.94%	88.71%	83.27%
31～60名	77.60%	83.40%	75.70%	83.10%	77.90%	83.20%	79.61%	84.14%	80.40%
61～120名	59.50%	70.30%	56.60%	67.10%	61.10%	68.50%	60.60%	70.52%	63.80%
121～240名	50.90%	58.30%	48.00%	58.50%	53.00%	59.00%	55.24%	62.25%	56.58%
241名以上	35.60%	46.70%	40.20%	49.10%	42.80%	50.70%	42.25%	50.02%	42.89%

5 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところが、教員ごとの結果です。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など** 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることになります。

② **レーダーチャート 2種類** 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目1～3の評定平均値が、3.0以上の学生だけに絞って集計した結果です。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告書です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策などが書かれています。

6 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生のみなさんから収集するために行われています。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた「授業の良かった点」

や「改善すべき点」を参考にして、自分の授業について点検・評価しています。

FD 委員会では、一定の基準に合致した科目（高評価科目および低評価科目）について、自由記述欄に書かれた各項目を閲覧しています。これは、学生のみなさんがどのような授業を高く評価しているのか、また、授業運営上のどのような問題点の改善を望んでいるのかを知るためです。ここで得られた知見については、FD 関連 Web ページ内の、「**授業評価自由記述欄からみる「よい授業」とは**」で公開しています。多くの授業担当者に、有効な教授方法や授業改善の手掛りを提供するためです。

多くの受講生によって指摘されている授業の問題点や改善要望点については、FD 委員会で検討した後、授業担当者と話し合いの機会をもつなど、改善に向けた具体的な方策を考えています。

自由記述欄に書かれた授業環境（照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など）に関する要望については、関係部署や自己点検・評価委員会で取り上げて、授業環境の整備に努めています。

以上

【参考資料】

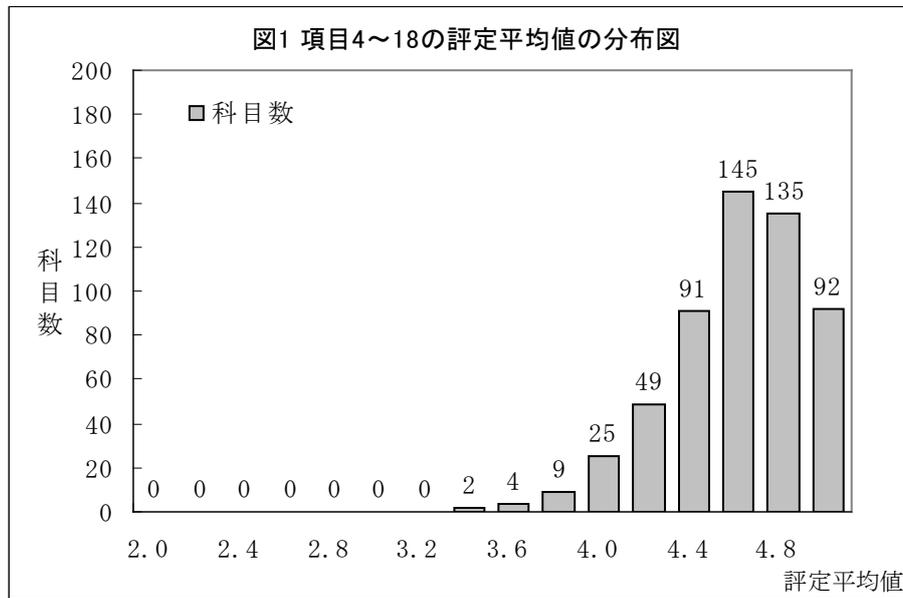


図 2-1 授業への出席

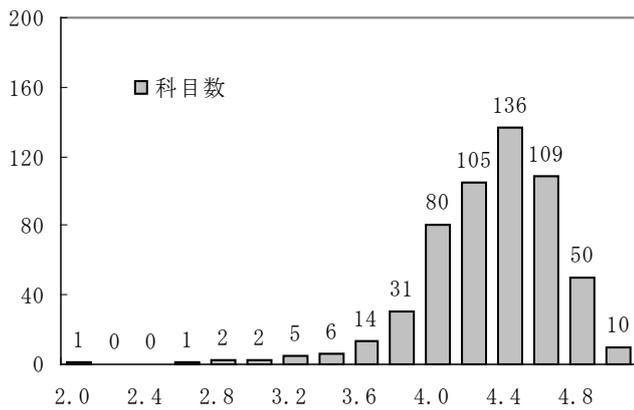


図 2-2 私語などせずに授業に取り組んだ

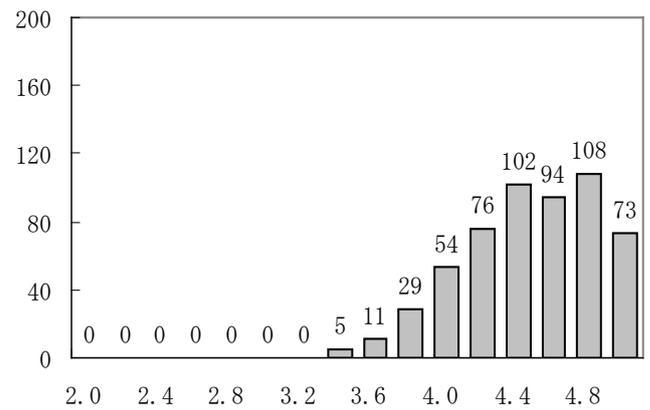


図 2-3 予習や復習など自主的な学習の実行

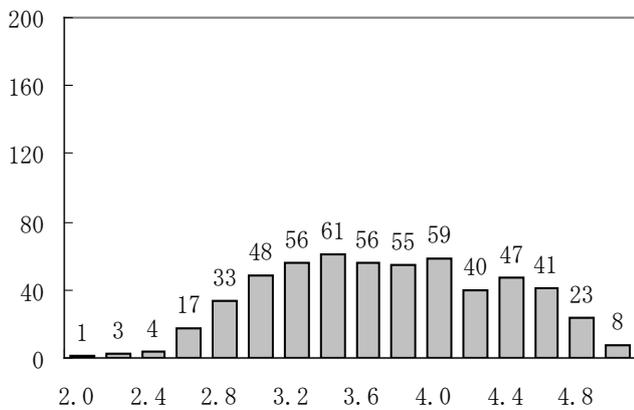


図 2-4 授業時間の厳守

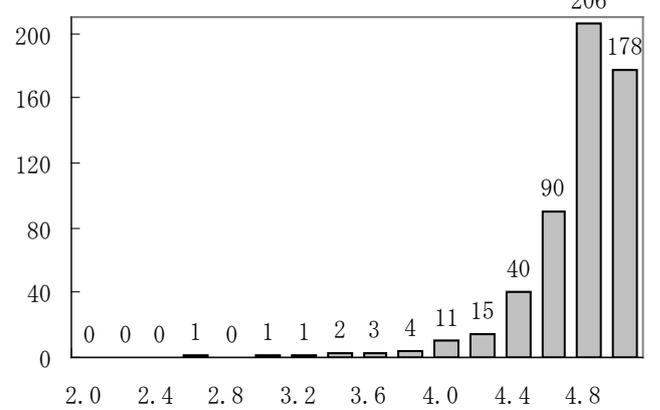


図 2-5 授業の構成や進行速度が適切

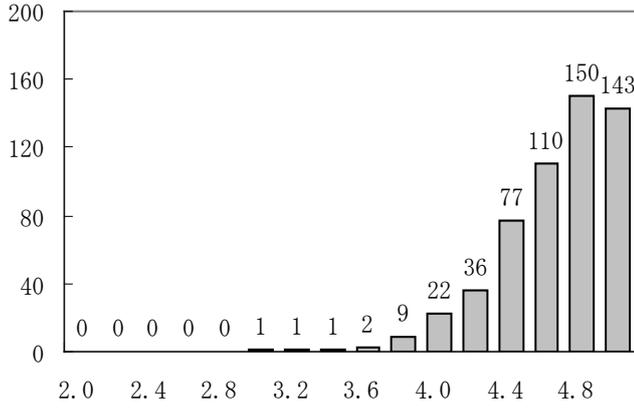


図 2-6 到達目標の明示

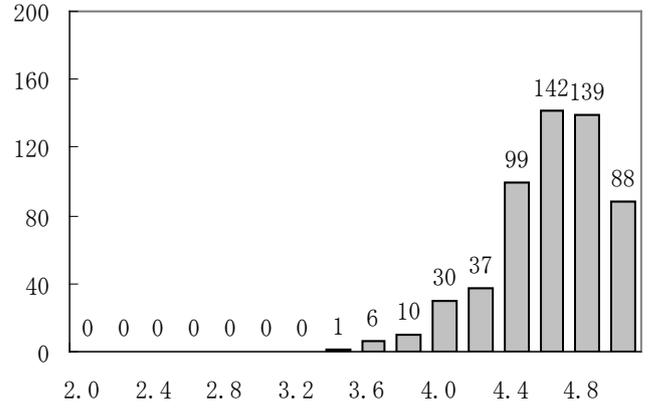


図 2-7 シラバスの有用性

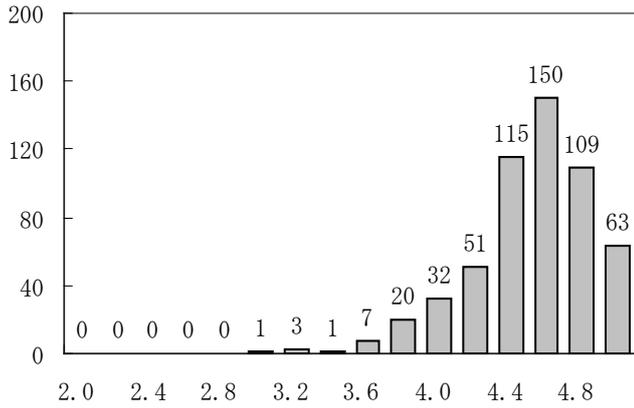


図 2-8 教員の声

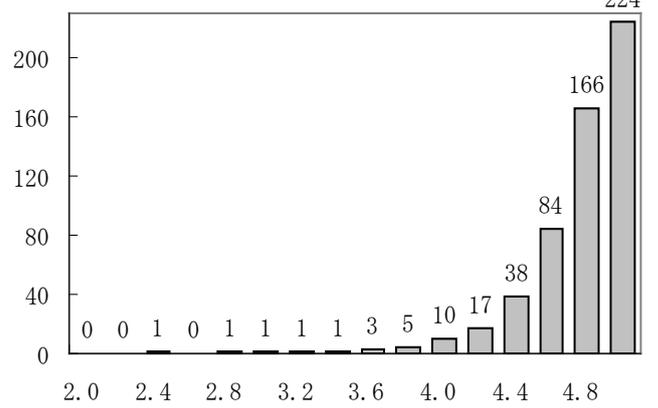


図 2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

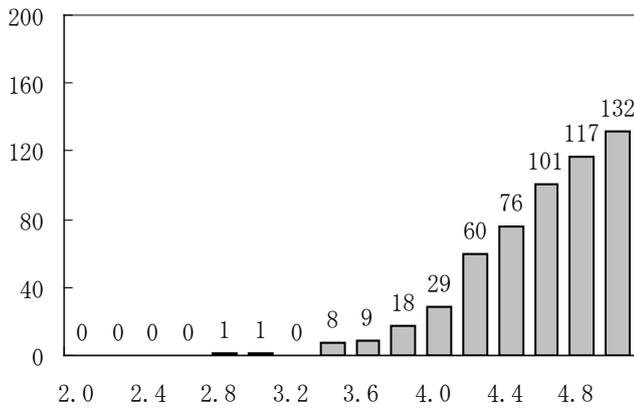


図 2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

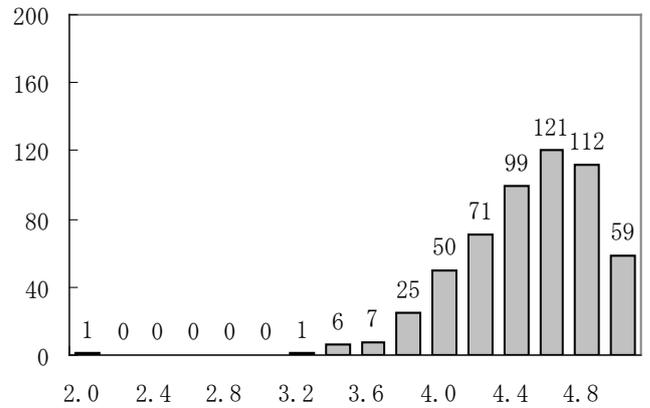


図 2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

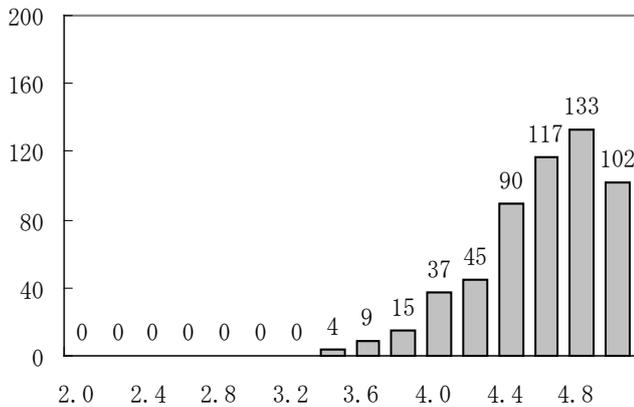


図 2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

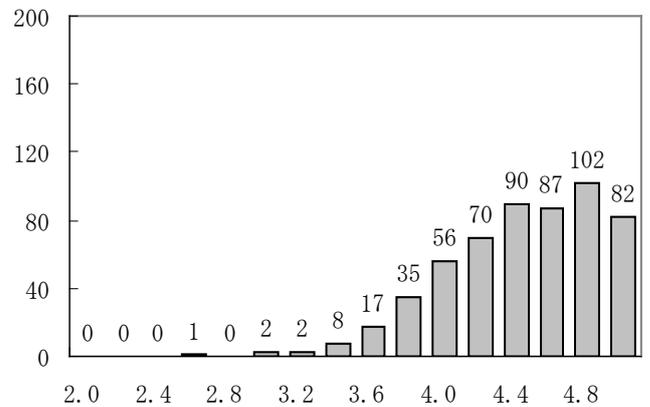


図 2-13 自主的学習のための指導・情報提供

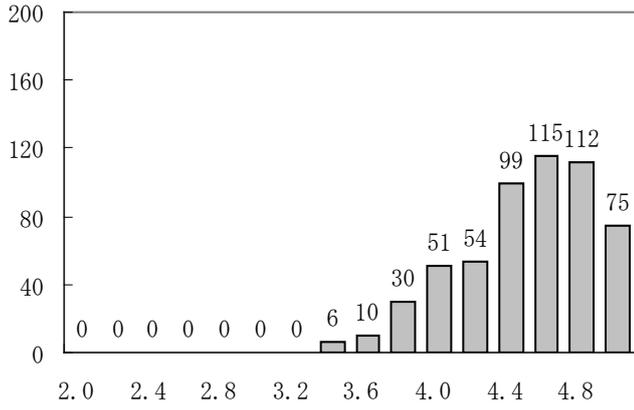


図 2-14 質問や相談の機会

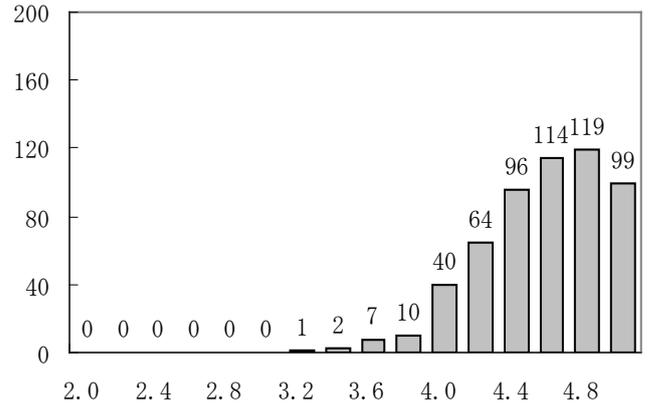


図 2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

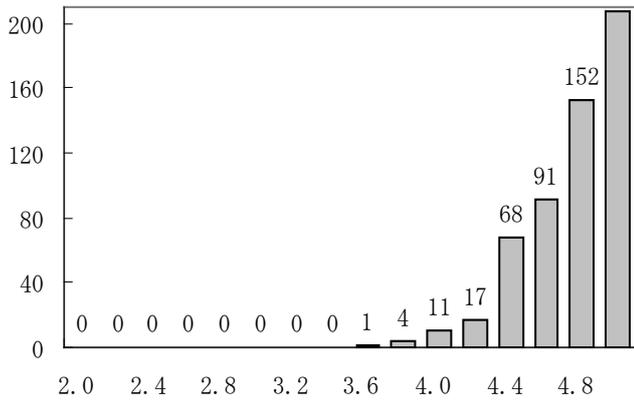


図 2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

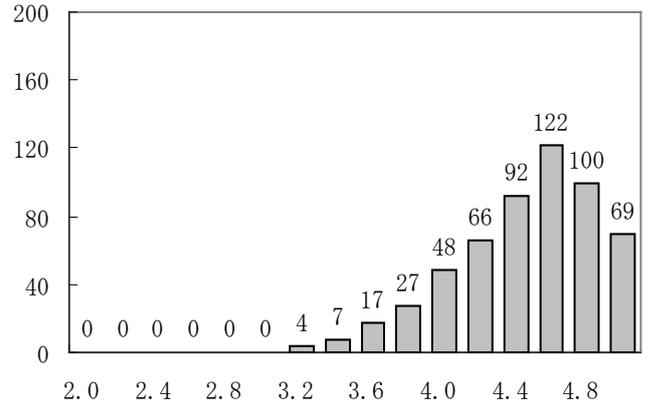


図 2-17 新しい知識や理解の深まり

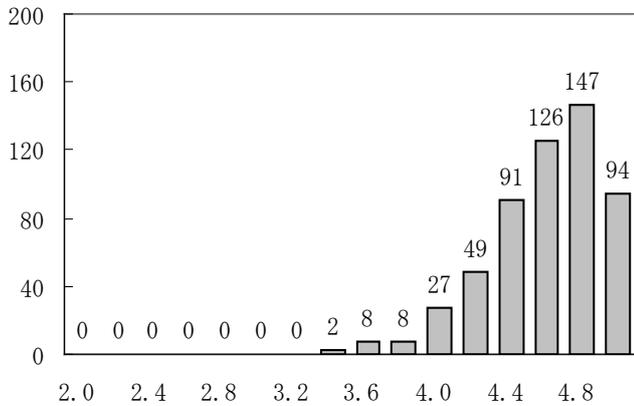


図 2-18 全体としての授業満足度

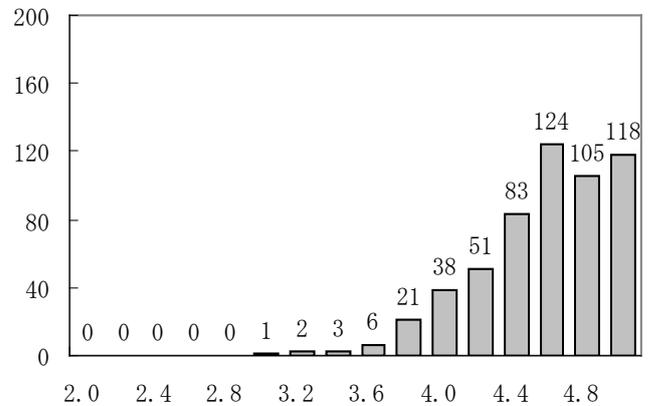


図 2-19 到達目標の達成に向けて授業は進んでいた

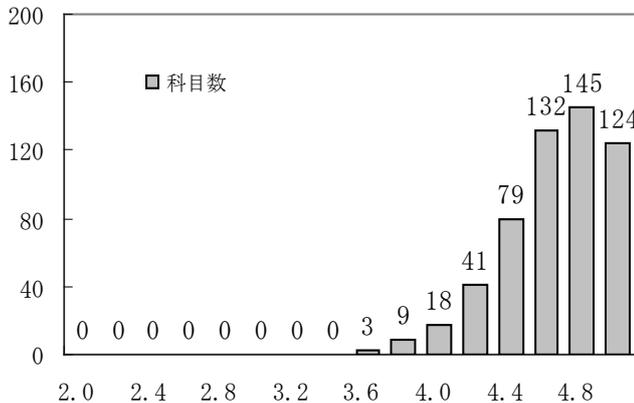


図 2-20 到達目標に向けて力が付いてきている

